令和３年度　学校評価表　　評価項目等　　**能登町立能登町立柳田小学校**

通し番号	評価項目		今年度の重点項目	担当者	評価規準・評価の観点	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	時期・評価材料	自己評価（中間）		自己評価（最終）		取組の成果と今後の改善策(中間)	取組の成果と今後の改善策(最終)	学校評価（中間）	学校評価（最終）
1	１学力の向上（進んで学習する子）	【感動のある授業づくり】	①児童が「やってみたい」と興味・関心を示す授業の導入や課題提示を行い、身につけた知識を活用して、学びへと向かう力を高める。	研究主任	授業の導入で興味を持たせる課題を与えている。	・外部講師からの学び ・授業づくりの創意工夫	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 2 保護者アンケート 2 職員アンケート 1	82.7 78.8 87.8	B B A	81.0 73.6 87.9	B B A	・児童が興味や問題意識をもてるような導入の工夫をし，課題から改善策を考え，すぐに実践に生かすなど，日々研究を重ねている。児童も「根拠や理由を用いて話し合い」という重点を理解してきている。 ・今後は，全教員で目的と課題を改めて確認し，重点的な取組を意識して指導する。	・全教職員で共通の課題意識をもち，校内研究を進めている。全学年を通して，根拠や理由を用いて自分の考えを説明することができてきた。 ・今後は「相手が納得できる自分の考えの伝え方」を重点とし，授業の振り返り活動で書き方のパターンを示し，条件に沿った分かりやすい文章構成の力を伸ばすように努める。	A 95.8%	A 100%
2			②話し合い活動の充実を図り、児童の多様な考えを教師の関りや発問により深めていくことのできる授業を追求し、児童の思考力・判断力・表現力を高める。	研究主任	教材研究を充実し、進んで学習する子の育成に努めている。	・教材研究の充実	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 3 職員アンケート 2	84.3 78.8	B B	87.3 81.8	A B	・職員間で「ともに学び，根拠や筋道を明確に表現できる子の育成」という共通の課題意識をもち，校内研究を進めている。どの学年も共通の具体的取組を大事にしながら，自分の考え・根拠・理由を見つけられるように意識して指導している。 ・今後は，授業で児童の考えが出た後に，さらに児童が立ち止まって考える発問をし，ねらいに迫る。	・今年度は，国語科を中心に学校研究を進めており，学習内容が深まる発問の吟味などの共通実践を大切にしていることにより，児童の「国語の授業が分かる」「国語が好きだ」「登場人物の気持ちを考えたり，説明文を読んだりするときは，根拠や理由を用いて自分の考えを書いている」の項目が，前期末より後期末の方が肯定的回答数値がどれも５%以上上がっている。 ・今後は，「条件に沿って相手に分かりやすく自分の考えを書く」ことの指導を意識して指導する。		
3			③授業場面で一人１台の端末を活用することで、児童の学びの質を高め、資質・能力を伸ばす。	GIGA推進教師	タブレットのよさを把握して、個々の意見を生かすために有効に活用できる。	・GIGA校内研修の充実 ・外部講師招聘の研修会	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 4 職員アンケート 3	80.4 72.7	B B	85.9 72.7	A B	・児童の意欲、関心は高まっているものの、職員の活用ができていないという現状である。 ・２学期は授業実践の校内研修を増やしていく予定であり、より授業の活用イメージをつかめるのではないかと考える。	・Chromebookの活用頻度が上がっていることが児童の意欲の向上につながっている。 ・日常的に活用するということに課題があるので，各教員の実践を交流しながら，Chromebookを活用した授業のイメージを高めていきたい。		
			④「感動」ある「主体的・対話的な深い学びのある授業」の実現に向けて、教師一人一人が授業力を向上させる校内研修の充実を図る。	研究主任	『模擬授業』『研究授業』「外部講師」の活用等により，授業力の向上が図られている。	・授業力向上に向けての校内研修の充実 ・外部講師招聘の研修会	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート 4	81.8	B	87.9	A	・研究授業は，計画的に行うことができた。今年度は道徳の研究発表校でもあり，道徳の研究授業について，外部講師からの指導・助言を定期的に受け，教職員全体の授業力向上に生かしている。	・全教職員の協力で，学校研究を計画的に推進することができている。 ・道徳研究発表会や国語科の学習指導について，指導主事を要請し，外部講師からの指導・助言を定期的に受け，日々の授業力向上に生かしている。		
4		【感動のある授業を支える学習基盤】	①基礎・基本的な学力を確実に身につけさせることで、「感動」ある「主体的・対話的な深い学び」への学習基盤を築く。	研究主任	漢字テスト・計算テストにおいて、全児童が合格をめざし努力している。	・家庭学習時間 ・自学ノート ・漢字テスト ・計算テスト など	アンケートの『肯定的な評価』の割合と漢字テスト・計算テストに合格した児童の割合 A：90%以上 B：70%以上90%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 6 職員アンケート 5	83.7 85.2	B A	85.3 85.2	A A	・今年度から，漢字と計算コンテストを２週に分けて取り組むことにより，１つ１つの練習を十分にすることができた。 ・全児童の合格を目指し，どの学年も再テストや個別指導を最後まで熱心に取り組んだ。	・全児童の合格を目指し，どの学年も再テストや個別指導を最後まで熱心に取り組んだ。 ・今後も児童に「１つのことにあきらめずに努力し続けること」や「努力した達成感」を持たせるように，取組を大切にしていく。	A 91.7%	A 95.8%
5			②読書体験を充実させることで、語彙の知識、思考、判断、表現、感動の注入や蓄積を図り感性を豊かにする。	図書館担当	読書の時間において、集中し、かつ楽しみながら読書活動の推進が図られている。	・朝読書の充実 ・家庭読書の実施 ・図書室の利用	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート7 職員アンケート 6	78.4 70.0	B B	74.7 70.0	B B	・スタンプラリーや，おすすめの本の紹介など図書委員会の活動を通して本を借りに来る人が増えた。 ・本を借りることだけでなく，読書の楽しさに気付けるような活動を設定していく必要がある。	・図書委員会の取り組みを通して、本を借りに来る人が増えてきた。 ・読書の楽しさや面白さを伝える活動を増やして，楽しんで読書できるようにしていく。		
6			③名文に接する機会を設け、洗練された美しい表現をじっくり味わうと共に、暗唱することを通して自分の語彙に生かし豊かな表現ができるようにする。	研究主任	毎月の名文暗唱に積極的に取り組み、声に何度も出して覚えることで、豊かな表現を吸収できるように努めている。	・毎月の名文暗唱	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 8 職員アンケート 7	84.0 81.5	B B	84.3 74.1	B B	・全校児童・教職員が，時間や方法を工夫をしながら取り組んでいる。取り組みを重ねることで，意欲的に取り組む児童が増えてきた。今後もクラス全体で取組む雰囲気を大切にする。	・取り組みを重ねることで，意欲的に取り組む児童が増えてきた。 ・クラス全体で取組む雰囲気をつくり，なるべく早く合格できるようにする。		
7			④感動したことを文章等において表現することで、自分の思いや考えを、適切な言葉で伝えることができるようにする。	研究主任	行事等を通して、感動した体験をその都度、作文に書き留め、継続していくことで、思いを表現できる力をつけている。	・言葉のスケッチ ・行事作文	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 9 職員アンケート 8	87.9 76.7	A B	88.7 81.5	A B	・全学年で作文を推敲する活動に取り組んでいる。書いたものを自分で見直すことで，自主的に分からなかった漢字や言葉を辞書を用いて調べる姿も見られるようになってきた。 ・行事作文をはじめ，今後は，複数の条件付き作文にも取組み，自分の思いを様々な言葉で表現できるようにする。	・行事作文は，新聞の地鳴りに学校から投稿しており，児童や保護者も意識して新聞を見ている姿が見られる。相手に分かりやすい文章表現を書こうとする意識にも繋がった。 ・今後も複数の条件付き作文にも取組み，自分の思いを様々な言葉で表現できるようにする。文末表現や言葉と言葉の繋げて書く力がつくようにする。		
8	２豊かな心の育成（心豊かな子）		①教育活動全般を通して必ず一人一人に活躍の場を設け、自己有用感を実感させる。	生徒指導主事	自分に良いところがあると感じることができ、一生懸命になれることがあると感じている。	・係り活動 ・個々の良さを引き出す役割分担	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 10 職員アンケート 9	89.9 76.9	A B	89.3 77.8	A B	・委員会活動，係活動を設定し，活動させることができた。 ・やなぎっこの木で，自己肯定感を高める。なるべく多くの児童が書いてもらえるように，クラス内でメッセージを送り合う等の工夫をする。	・体育的行事や計算漢字コンテストなど，様々な分野の行事を実施したこと。またそれを表彰やアナウンスしたことで，一人一人が認められる場が増えた。「やなぎっこの木」は継続していくとよい。アナウンスの回数を増やすようにしたい。	A 91.7%	A 91.7%
9			②道徳教育を推進し、「命の尊さ」「粘り強くやり抜くことの大切さ」「思いやり」等を学び、生きていることの素晴らしさ「感動」を通して、自他の存在を大切にできるようにする。	道徳推進教師	道徳の授業を充実させることで、自他の存在を大切にしようとする行為や意識を高めている。	・道徳教育の充実 ・学級活動の充実 ・体験活動の充実	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 11 保護者アンケート 4 職員アンケート 10	83.5 79.8 95.8	B B A	81.7 75.2 94.4	B B A	・5月に「道徳教育を進めるにあたって」の校内研修を行うことで，共通理解を図ってスタートすることができた。 ・1学期2回の研究授業の実施によって，発問の工夫や構造的な板書など，具体的に研修を積み重ねることができた。 ・各種行事や講演会によって，児童の心に響かせる活動ができた。	・研究発表会に向けて，「授業づくり」「家庭や地域との連携」「環境づくり」において，共通理解・共通実践を図りながら，道徳教育を進めることができた。児童の道徳アンケートでは，「目標をもって，粘り強く努力している。」の肯定的回答が，90.5%となった。 ・来年度に向けて重点内容項目を検討していく必要がある。		
10			③互いに尊重し合い、気持ちの良いあいさつ、言葉遣いができるようにする。	生徒指導主事	自分から進んで誰とでも気持ちの良いあいさつや言葉遣いを心掛けている。	・あいさつの励行 ・思いやりの言動	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 12 保護者アンケート 7 職員アンケート 11	76.5 67.5 76.9	B C B	80.3 68.3 88.1	B C A	・あいさつ運動を行った。社会科見学，来客等，場にあったあいさつの指導をその都度行っている。 ・あいさつ運動を実施する。その際，職員と児童に，目的と実施方法を事前に告知し，目的達成に向かって取り組ませる。①あいさつは大事②あいさつの練習③自分からする。	・学期ごとのあいさつ運動を運営委員会の活動と合わせて，計画的に行うことができた。児童集会で「あいさつの話」をすることができた。 ・学校内での来客（来者・地域の人・保護者等）への挨拶の仕方を具体的に指導する。		
11			④地域の「ひと・もの・こと」等に学ぶ機会や体験活動を通して、心を耕し、自分の生き方に繋げて考えることができるようにする。	教務主任	児童は，地域行事や地域の各種団体との交流等の体験活動等を通して，他とのかかわりを意識し，地域のよさを感じ取り，規範意識や郷土愛を深めている。	・地域行事への参加呼びかけ、地域への学校支援依頼	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 13 保護者アンケート 8 職員アンケート 12	69.3 55.8 66.7	C D C	62.0 53.3 77.8	C D B	・効果的な場面で、体験活動を取り入れたり、専門知識がある人にゲストティーチャーを招いて、思いを伝えていただいたりする活動を組み入れ、児童が様々な見方考え方に触れ、その生き方に出会うような場を設定する。 ・通信で家庭に知らせる。	・地域の専門的な知識や技能を持っている方、外部機関とのつながりを密にし、単元の効果的な場面で、地域の方々の力を生かすことができた。 ・今後も，学習内容を進めながら、更に地域の方々の思いや地域のよさを知る場面を設定することで規範意識や郷土愛を深めるようにする。		
12	３体力の向上（たくましい子）		①家庭と連携した安全教育・健康教育を推進し、心身ともに健康な児童を育成する。	安全教育担当 養護教諭 保健主事	学校保健委員会の開催を通して、ノー画面デーなど、児童の安全面や健康面に努めている。	・ノー画面デー ・ＡＥＤ講習会 ・プール当番 ・非行被害防止講座 ・学校保健委員会	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 14 保護者アンケート9 職員アンケート 13	81.0 67.0 72.2	B C B	79.0 64.4 69.4	B C C	・児童と保護者アンケートから、早寝、早起き、朝ごはんの意識にズレがある。２学期に生活アンケートを実施の予定であり、生活習慣の課題を捉え、指導につなげたい。	・２学期は学活や全校集会の機会を通して、歯みがき・手洗い・感染症予防等の指導を行ってきたがアンケート結果の向上には繋がりにくかった。生活アンケートの結果やノー画面チャレンジ、歯みがき週間の結果等を活かし、児童の実態にあった指導をタイムリーに実施できるように養護教諭と担任が連携して取り組んでいきたい。 ・指導の様子等は、学校だより・保健だより・学級通信・HP等を通して保護者へ還元していく。	B 79.2%	B 83.3%
13			②「スポチャレいしかわ」など、体を動かす楽しさと爽快さが実感できる運動習慣の定着に努める。	体育担当	「スポチャレいしかわ」「体力アップ1校1プラン」による体力向上の取組が計画的に行われている。	・年間を通じた体力・運動能力づくり	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 17 保護者アンケート11 職員アンケート 14	85.3 70.7 73.3	A B B	88.0 64.7 77.8	A C B	・スポチャレいしかわに全学年取り組んだ。「４０ｍ」では，１・３年生はブロンズ賞，４年生はシルバー賞の記録であった。 ・記録や結果を，集会や会議を通して，児童や職員に還元していく。	・スポチャレでは「長縄」「シャトルボール」も全学年取り組むことができた。ブロンズ賞，シルバー賞の学年もあった。 ・学校だよりやホームページ等を通して，さらに保護者に発信していく。		
14			③ さまざまな行事や各種大会等に積極的に参加し、自身の新たな挑戦心を育み、やり遂げることで生まれる達成感「感動」を味わうことができるようにする。	体育担当	「マラソン大会」「水泳」「なわとび大会」「いしかわっ子駅伝」の参加を通して様々な記録に挑戦している。	・町や県の大会への積極的な参加	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	児童アンケート 18 職員アンケート 15	83.3 82.1	B B	83.3 89.7	B A	・コロナ禍ではあるが，運動会や水泳教室など，工夫しながら実施することができた。 ・校外の大会などは今後もなくなることが予想されるので，体育委員会企画の校内のスポーツ大会などを実施していく。	・マラソン大会は小雨だったが，実施することができた。高学年は歴代の記録や昨年の自分の記録など自分の目標をもって取り組む様子があった。いしかわっ子駅伝には，男女各チーム参加することができた。 ・水泳大会やマラソン大会など，異学年の姿が見られる大会であることが重要だと感じた。コロナ禍ではあるが，交流ができるような工夫をこれからも続けていく。		
15	４安心安全な学校		①児童・保護者が安心して通い、通わせることのできる安全な学校を目指す。	安全教育担当 教務主任	児童が生活する場の施設・設備について教育環境が整備されている。	・安全点検 ・清掃活動 ・街頭指導	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート13 職員アンケート 16	86.4 87.2	A A	81.2 86.7	B A	・安全点検で施設の管理や街頭指導や交通安全教室等で交通安全の見守りや指導を実施している。 ・また、保護者に対する先生方の日々の連絡が保護者の安心につながっていると考える。	・毎月実施している安全点検で，施設や設備の点検ができた。 ・街頭指導で，バスの乗り方や登下校の交通ルールについて指導できた。	A 100%	A 100%
16			②児童理解を深め、児童のそばに「真実」があることをとらえ注意深く観察し児童の実態把握に努め、気づいたことを報連相し合える体制をつくる。	特別支援教育コーディネーター 生徒指導主事	児童理解の会を行い、共通理解と共通指導の徹底に努めている。	・児童の状況の的確な把握と、それに基づいた適切な指導	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート14 職員アンケート 17	86.5 85.7	A A	80.9 90.5	B A	・児童理解の会で気になる子に職員間で共通理解を持った。複数の目で見つめ，対応を組織的に行った。今度も継続してすすめたい。	・児童理解の会で，気になる子の変化や現在の状況を共通理解することができた。その結果，組織的な対応をすることができた。		
17			③危機管理は、危機を作らないことであることを肝に銘じ、未然に防ぐためのマニュアルを定期的に確認し見直す。	教頭 教務主任 保健主事	児童の安全を確保するためのマニュアルに沿って職員が対処できるよう周知されている。	・避難訓練の充実 ・アレルギーへの対応	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート 18	92.3	A	92.3	A	・避難訓練の実施やアレルギー対応の研修会など，計画通り実施できており、周知ができているものと考える。 ・水害の避難訓練も新たに行う予定である。	・不審者対応避難訓練を実施して，対応を共通理解することができた。 ・避難訓練の振り返りで挙げられたこと（実施時期等）を検討して，来年度に向けて修正を行っていく。		
18	５家庭地域との連携		①学校、保護者、地域の連携を生かし、より良い学校教育の実現を目指す。	教頭	保護者・地域・学校が力を合わせて教育活動に取り組んでいる。	・除草作業 ・資源回収 ・ＰＴＡ役員会等，	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート 15 職員アンケート 19	85.4 78.6	A B	75.9 79.5	B B	・PTA作業は、保護者の皆さんの協力のもと行うことができた。行事の変更については、役員会を開き、同意を得ながら進めることができた。今後も、連携しながら取り組んでいく。	・除草作業は２回、資源回収は１回実施することができた。また、役員会においても、行事について等、連携をとりながら進めていくことができた。来年度も連携を密にしながら、保護者や地域と力を合わせて取り組んでいく。	A 100%	
19			②地域の人材・素材を活用・教材化し、地域の教育力を生かした教育課程を編成し実践する。	教頭 教務主任	地域の素材を元に，学習活動を行ったり，地域の人材を活用したりして，地域の教育力を積極的に活用している。	・地域の方をゲストティーチャーに招いた道徳の授業	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート 16 職員アンケート 20	86.7 75.0	A B	81.5 81.0	B B	・物的・人的資源をまとめる。 ・教員間で、地域素材活用の意味や教育的効果などについて、コミュニケーションをとり、共有化を図る。	・道徳や社会等で地域の方に来校していただいたり、出向いたりしながら学習を深めることができた。来年度は、物的・人的資源をまとめていくようにする。		
20			③学校公開、授業参観を定期的に行い、地域に開かれた学校づくりを行う。	教頭	HPの更新，学校だよりや学級だよりの定期的な発行等、学校公開、授業参観を通して、日々の教育活動を保護者や地域に伝えている。	・地域・保護者を対象とした公開授業 ・各種お便りの定期的発行、ホームページの更新による情報発信	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	保護者アンケート 17 職員アンケート 21	87.7 82.1	A B	79.5 82.1	B B	・コロナ禍においても、授業参観後のオンラインでのPTA総会や講演会を開くことができた。今後も、状況に応じて対応していくことで、地域に開かれた学校づくりに心がけていく。	・学校公開、授業参観を感染症対策をしながら計画的に進めることで、日々の教育活動を保護者に伝えることができた来年度も、お便りやHPだけでなく、積極的に学校公開・授業参観を行い、保護者や地域の理解を深めていくようにする。		
21	６組織力の向上		①学校経営参画意識の高揚を図り、全職員が一丸となって組織的な校内指導体制を推進する。	教務主任 教頭	各担当を中心にそれぞれの項目の結果に基づいた、指導改善策が示され、組織的に取組が行われている。	・学校評価の結果を生かした学校運営	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート 22	75.6	B	81	B	・一点突破で、徹底させる事柄を全教職員で共通理解し、組織的に取り組む。	・校務分掌における機能化システムをもとに、主任を中心に組織的に取り組むことができた。来年度も校務の平準化を意識しながら、全職員で学校目標達成のために取り組んでいくようにする。	B 79.2%	A 87.5%
22			②YSS（若プロ研修）でベテランと若手が互いに学び合い、学校力を向上させる。	教務主任 教頭	様々な行事、教材研究等において、学び合い、教え合うことでそれぞれの良さを吸収している。	・職員同士の関わり合いを大切にした「学び合い」の充実	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート 23	75.6	B	84.6	B	・校外での研修後にYSSを実施する。 ・研修参加者が研修内容の報告をし、活用事例を示し、今後生かせるよう共通理解を図る。 ・適材適所で行う。	・YSSにおいて、特技を生かした研修や、研修内容の還元を計画的に行ったことで、学び合う職員集団の体制ができていた。来年度も職員が負担なく互いに磨き合えるようにする。		
23			③事例等を学ぶ機会を設けて、自己管理や服務規律を意識しリーガルマインドを高める。	教頭 教務主任	職員会議等で、定期的に服務規律について確認し意識を高めている。	・定期的な服務規律の声掛け ・事例等の周知	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A：85%以上 B：70%以上85%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	職員アンケート 24	83.3	B	92.9	A	・YSS等、定期的に確認する場を設けることで、意識化を図る。	・定期的に服務規律について伝えたり、事例をもとに研修をすることで、職員の危機意識が高まった。来年度も継続していく。		
24	７業務改善		④働き方改革を意識し、校務分掌に見通しをもち、各自が計画的に効率的に努め推進する。	教頭 教務主任	働き方改革を意識して、実施している。	・定時退校日や定時退校時間の設定 ・校務分掌の複数体制化	A：40h未満 B：60h未満 C：80h未満 D：80h以上	職員アンケート 25	59.5	D	78.6	B	・業務内容の整理をする。縮小できることを来年度に申し送りし、業務の精選を図る。	・職員の時間を意識した働き方に取り組んだため、退校時間も全体的に早くなってきた。来年も優先順位を考えながら、働き方改革の推進をしていく。	C 62.5%	B 70.8%